

百科事典少女

本誌P.25～31

1 (右から)読書休憩室 うそ 本当 百科事典

紳士おじさん 百科事典

2 ①しんし ②きゅうけい ③ほんだな ④ぞうしょ

⑤いす ⑥ゆいいつ ⑦だいたん ⑧ゆ

⑨とんちゃく ⑩はいざい ⑪かわ ⑫ひみつ

⑬りようかい ⑭げつぷ ⑮こうにゅう

⑯はなぞの ⑰ちっそ ⑱かいどう ⑲の

⑳ほそつ ㉑こうもく ㉒ひふ ㉓ようさい

㉔つ ㉕しつぽ ㉖いっばい ㉗えんりょ

㉘たんさく ㉙ゆいごん ㉚たいこ ㉛ほんよう

㉜かんぺき ㉝せいぜつ ㉞しいてき

㉟さいぼうまく ㊱じんぞう ㊲せきつい

㊳きようせん ㊴かんげん ㊵りゅうさん

3 ふてぶてしさ ㊶ずうずうしさ・厚かましけ

畳みかける ㊷【記者が畳みかけるように質問をした。】

浸る ㊸【彼は小学校時代の思い出に浸っている。】

ないがしろ ㊹【軽んじること。】

言葉を広げる

(1) Rちゃん

(2) 読書休憩室

(3) 百科事典の世界

文章を読み深める

てびき1

1 あしながおじさん

2 ・それを読むのと同じくらいの、胸の高鳴りを覚えた。

・一冊分の厚みだけ自分の世界が広がったようで、なぜかしら誰にともなく自慢したい気分になった。

3 イ

4 (1)(例)レシートなしで読書休憩室に出入りしているところ。

(例)レシートを持っていないのに読書休憩室にいるところ。

採点ポイント! 「レシートなしで」「レシートを持たず

に」など、レシートを見せれば利用できるというルールを無視していたことがわかる言葉を入れよう。

(2) 妙なふてぶてしさ

5 ウ

ハッピーエンド

7 (1)(例)学校では無口で、いつでも一人ぼっちにいるが、

読書休憩室ではおしゃべりで、おせっかいで、いきいきとしている。

(2) 空気 呼吸 解放

8 ご都合主義() ・甘ったるい() ・軽薄()

() 気負いすぎ()

9

記述サボート

読書休憩室

入れない

(例) もう二度と(大切な)読書休憩室に入れないと信じたから。

10

(1) 本当のお話

(2) やがて片膝が椅子に載り、上半身はつんのめって百科事典を抱え込むような姿勢になった。

12 11

さちようめんに 根気強く

(例) Rちゃんがときおり声に出して百科事典を読んだこと。

13

エ

(例) Rちゃんが声に出して百科事典を犬のべべに読み聞かせたこと。

てびき2

1

(例) Rちゃんはもう戻ってこないこと。

(例) Rちゃんは二度と読書休憩室にこないこと。

(例) Rちゃんはもう死んでしまったということ。

2

(1) (例) 見覚えのある手提げ袋を持っていたから。

(2) (例) 迷わず百科事典を手にとったから。

3

ア・オ

4

(例) 紳士おじさんの行動を口出しをせずに見守りたい。

(例) 余計な口出しをせず、紳士おじさんを静かに見守りたい。

5

探索した道 踏みしめ

6

ア

てびき3

1 ①信じられない思いで立ち尽くす
②全くふだんと変わりなかった。()

2

(例) 悲しい(さびしい・冷たい・唐突な)

3

(例) 人に流されずに自分の信念で突き進む。妙にふてぶてしいけれど憎めない人物。

(例) 学校では無口だが、読書休憩室ではいきいきとする人物として描かれていた。

(例) 「本当のお話」が大好きな女の子であり、中でも百科事典を最も愛していた。

読解チェック

1

(例) 読書好きなところ。

いつも読書休憩室にいるところ。

2

(例) 遠慮深くレモネードを飲まないところ。

(例) 必ずアーケードのレシートを持ってくるところ。

採点ポイント! 二つあげよう。

全体整理

(上段右から) 紳士おじさん 読書休憩室 Rちゃん

百科事典 百科事典 旅 最後 姿

(下段右から) 大喜び 好き 永遠

サハラ砂漠の茶会

本誌P.60～64

1 (右から)美 サハラ砂漠 おいしい 音楽

国 花 目撃 美しい

2 ①さばく ②けいたい ③か ④わ ⑤ほど

⑥ていしゅ ⑦けつじょ ⑧かきね ⑨かじょう

⑩いちまつ ⑪りゅうき ⑫きゅうりよう

⑬とうげい ⑭りゅうれい ⑮つや ⑯しきさい

3 紛れもない▼【彼の話は紛れもない真実だ。】

元 来▼【本来】

十 全▼【完全・万全】

裏 腹▼【彼は表情とは裏腹にきつく言い放った。】

いわば▼【友情は、いわば一生の財産だ。】

西 洋▼【東洋】

確 信▼【博士は実験の成功を確信している。】

思 想▼【主義・理念】

とうてい▼【私にはとうていかなわないレベルだ。】

いつしか▼【日はいつしか暮れていた。】

欠 如▼【あるべきものが足りないこと。】

文章を読み深める

てびき1

1 (1)すべいにある何気ないもの

(2)工

2 (1)(例)(砂漠で)出されたお茶や作ってくれた食事はどれも驚くほどおいしかったこと。

(2)私とあなたは同じ人間だ

てびき2

1 (1)ウ

(2)芸術作品は発表されたその瞬間に、「皆のもの」になるからです。

2 イ

3 記述サポート 皆同じ 伝える

(例)国境や民族、宗教そして思想をも超えて、人間は皆同じなのだと伝えること。

(例)人々に共通の体験をさせ、それを通して人間は皆同じであると伝えること。

4 ①同じ ②分かり合う

5 (例)「人間は皆同じである」という感覚が人々に欠如し始めた時代だから。

全体整理

(右から)茶会 驚く 同じ人間 皆のもの

遊牧民 旅行者 皆同じ 美 メッセージ

読解チェック

(右から)体験 美 『黄金の扇風機』 見いだす

絶対的である

自分の考えを書き表そう

(例) 植え込みの形を作りこんであったり、幾何学模様を作ったたりして、理想の形に合わせて自然を人工的に作り変えている。

(例) 木や芝の模様をいろいろな形に作りこんでいる。自然と調和しているというよりは、自然を改変しているようだ。



解説

てびき1

1 (2)「この道案内の男が差し出してくれるもてなしの心」(99⑪)を感じ、「心からの礼を伝えた」(98⑬)とあるね。これを筆者は「茶会」だと感じたんだよ。

2 (1)携帯用のしゅうゆパックを持っていくほど「覚悟」していた筆者だから、「驚きであり、感動」であったんだね。

てびき2

1 (1)「そう」は、「彼らの音楽はその国の人々だけの……本当に理解できるのもその国の人々だけなのだろうか」(100⑨)の部分を目指すよ。

3 直前の部分「国境や民族、宗教そして思想をも超えて、人間は皆同じなのです」(101⑤)をまとめよう。

5 「いつしか、『人間は皆同じである』という感覚が人々に欠如し始めました」(101⑪)とあるよ。

黄金の扇風機

本誌P56～59

1 (右から)美しい

金 ロココ 日本

シンプル 趣味(感覚)

2 ①かざ

②きゆうでん

③ぬ

④はな

⑤くつ

⑥すず

⑦おつべい

⑧おちい

3 違和感▶【私はその配置に違和感を覚えた。】

シンプル▶【簡素・単純】

シック▶【上品な・あか抜けた】

：づくし▶【母は海鮮づくしの夕食を楽しみにしている。】

絶対的▶【相対的】

美意識▶【彼には美意識のかけらもない。】

逆に言えば▶【逆に言えば失敗も教訓となる。】

平均的▶【普通・一般的】

浸透▶【②】

否定▶【肯定】

特定▶【この鳥は特定の地域でしか見られない。】

こわばる▶【恐怖で彼の表情はこわばった。】

言葉を広げる

(1)なのだろうか

(2)結び付きかねない

文章を読み深める

1 民族・地域・文化

2 エジプトと日本の美的センスの違い

3 美的条件(美的感覚) よい

4 ア

5 シンプル シック

6 ①(例)何を美しいと感じるかは文化や地域によってさまざまであること。

②(例)何を美しいと感じるかは時代や何かのきっかけで変わること。

【採点ポイント!】①と②それぞれ24字以上書いていないと×。「〜こと。」で結ぼう。

【採点ポイント!】①と②それぞれ24字以上書いていないと×。「〜こと。」で結ぼう。

と×。「〜こと。」で結ぼう。

7 イ・エ

8 記述サポート 感覚 失われる

(例)それぞれの国がもっていた美的感覚が失われること。

(例)それぞれの国がもつ美的感覚が似通ってきていること。

と。

9 先進国で美しい

10 (例)美・美しいということ

【採点ポイント!】「美しいもの」など、「美」「美しい」というキーワードが入っていれば○。

うキーワードが入っていれば○。

11 ア

全体整理

(右から)美しい

違う

美的

違い

薄れ

さまざま

変化

似通つ

しなやか

新しい